

エンカウンター・グループのオーガナイザーの役割

Role of organizer of Encounter Group

野島 一彦

跡見学園女子大学

文学部臨床心理学科

Kazuhiko Nojima

Faculty of Letters, Atomi University

I はじめに

わが国では1969年からエンカウンター・グループの実践が行われるようになり、その後、プロセス（野島，1982a、申，1986、林，1995など）、ファシリテーション（安部，1984、中田，1993、野島，2000など）、アウトカム（鎌田，2001、坂中・田中，2001、野島・村山，1975など）等についての研究論文は盛んに発表されるようになった。しかし、オーガナイザー、オーガナイゼーションについての研究論文はとても少ない。論文のタイトルにオーガナイザーあるいはオーガナイゼーションと記載されているのは、村山（1979）、岩村（1999）のみである。

筆者は1970年以来、エンカウンター・グループの実践と研究に携わってきた。そのなかで、オーガナイザーも数多く経験してきた。ただ、それについて正面から取り上げて論じてこなかったのが、本稿で改めて①エンカウンター・グループ・ワークショップにおけるオーガナイザーの位置づけ、②筆者のオーガナイザー経験、③オーガナイザーの役割、④オーガナイザーにとって大事なことについて論じたい。

II エンカウンター・グループ・ワークシ

ョップにおけるオーガナイザーの位置づけ

野島（1982b）のエンカウンター・グループ構成論では、スタッフの種類は、次の4つである。

- ① オーガナイザー
- ② 事務局

事務局は、オーガナイザーとともに、ワークショップ全般の仕事を引き受けるのであるが、特に事務的・実務的な面で動くことになる。準備段階では、ワークショップ案内の各方面への配布、参加申し込み者の受付（申し込み金の受付）、参加申し込み者へのワークショップ開催要項（スケジュール、持参品、交通案内、服装等の詳しい情報の連絡）の発送、会場への最終的人数の連絡、ワークショップ中に必要な物の収集と買出しおよび運搬等がある。また、かなり多額のお金を扱う会計の仕事も重要な任務である。それにワークショップ期間中は、グループ・セッション、コンパ、自由時間のための食料品や、参加者から依頼された品物の買出し等もある。

- ③ ファシリテーター
- ④ リサーチ・マネージャー

そのワークショップでリサーチが行なわれる場合には、リサーチ・マネージャーが

必要になる。リサーチ・マネージャーは、ワークショップ前には、リサーチ・デザインを立て、他のスタッフ（特にファシリテーター）にリサーチ計画の説明をし、実施への承認を求め、必要なりサーチ用具を準備する。ワークショップ期間中は、先ず参加メンバーに対してリサーチへの協力を求め、承認が得られれば、計画にもとづいて実施する。ワークショップ後は、フォローアップ・リサーチを実施する。そして全データを分析し、結果をまとめる。それから他のスタッフや参加メンバーに対して結果のフィードバックを行なう。また必要事項を記録するとともに、データ、記録を後で必要な時に見直せるように、きちんと整理してファイルに保存する。

そして全スタッフが、ワークショップ前、ワークショップ期間中、ワークショップ後にスタッフ・ミーティングを開いて、運営を行う。このような構造からすれば、オーガナイザーは欠くことができない重要な存在である。

また野島（1982b）は、オーガナイザーをやる人は、それまでにエンカウンター・グループで、メンバー、ファシリテーター、事務局等を豊富に経験していることが必要で、また、個人カウンセリングができることも必要であると述べている。

Ⅲ 筆者のオーガナイザー経験

筆者のオーガナイザー経験をふりかえるといくつかのタイプに分けられる。

（1）単独オーガナイザー

エンカウンター・グループ（スモール・グループ）のファシリテーターは別について、筆者は単独でオーガナイザーの役割だ

けを果たす。

例＝筆者は長年、「大学院におけるエンカウンター・グループ・ファシリテーター養成プログラム」（野島，2013）を実践してきたが、そのなかで「エンカウンター・グループ in 九大（2日間、通い）」、「インターカレッジ・エンカウンター・グループ（3日間、通い）」では、筆者が単独オーガナイザーとなり、3～4グループのファシリテーターをペアの院生に担当してもらった。

（2）複数オーガナイザー

エンカウンター・グループ（スモール・グループ）のファシリテーターは別について、筆者は別のオーガナイザーと一緒に複数でオーガナイザーの役割だけを果たす。

例＝筆者（オーガナイザーのみ）ともう一人（オーガナイザー兼事務局）がオーガナイザーとなり、2グループ同時進行の一般公募のワークショップを担当した。

（3）単独オーガナイザー兼ファシリテーター

エンカウンター・グループ（スモール・グループ）のファシリテーターは別にもいるが、筆者もファシリテーターの役割を務めながら、単独でオーガナイザーの役割も果たす。

例＝前述の「大学院におけるエンカウンター・グループ・ファシリテーター養成プログラム」の1つである「外部（看護学校）のエンカウンター・グループ（4日間、宿泊）」では、筆者が単独オーガナイザーとなり、4グループ同時進行で、1つのグループのファシリテーターも務めた。

（4）単独オーガナイザー兼事務局

エンカウンター・グループ（スモール・

グループ) のファシリテーターは別にいて、筆者は単独でオーガナイザーの役割を果たしながら、事務局の役割も務める。

例 = 1 グループ編成で、筆者が単独オーガナイザー兼事務局の役割を務めた。

IV オーガナイザーの役割

筆者がオーガナイザーを担当する時、どのような役割をとっているかを3つの場面に分けて述べよう。

(1) ワークショップ前

①ワークショップの基本コンセプト(目的、スタッフ、グループ編成、場面設定)を考える

②予算案を作成する。

③スタッフ・ミーティングを開催し、打合せを行う。

④開催要綱(ご案内)を作成し、広報を行う。(例: 末尾の付録参照)

(2) ワークショップ期間中

①ワークショップ開始前のスタッフ・ミーティングを開催し、打合せ(グループ分け、スケジュール等)を行う。

②ワークショップ冒頭でのオリエンテーション(主催者としてのご挨拶、スタッフの自己紹介、メンバーの自己紹介、グループ分けの発表、スケジュールの発表等)を行う。

③グループのセッション中は一定の場所において、メンバーがグループから抜けてきた時の相手をする。

④セッションとセッションの合間も一定の場所において、メンバーやファシリテーターがやってきた場合の相手をする。

⑤1日に1回程度、スタッフ・ミーティングを開催し、ファシリテーター、事務局

から進行状況について報告を受け、サポートする。

● 「大学院におけるエンカウンター・グループ・ファシリテーター養成プログラム」での特別対応

「大学院におけるエンカウンター・グループ・ファシリテーター養成プログラム」は教員による院生教育という特徴があるため、次のような特別対応が行われる。毎セッション後に、各グループのファシリテーターはグループ状況をオーガナイザーに報告し、オーガナイザーは個人とグループの理解と関わり方についてサポータティブにコメントする。

⑥ワークショップ終了時のクロージング(スタッフからの最後のご挨拶、メンバーの感想の発言、守秘義務の再確認、ワークショップ直後は意識状態が普通と違うので家に帰り着くまでは気をつけることが必要との注意喚起等)を行う。

(3) ワークショップ後

①スタッフ・ミーティングを開催し、反省会を行う。

● 「大学院におけるエンカウンター・グループ・ファシリテーター養成プログラム」での特別対応

院生が担当した全グループについて、1グループごとに約1時間半をかけてカンファレンスを行い、グループ体験を詳細に検討する。

②フォローアップ・アンケートを実施す

ることがある。

③気になる人のアフターケアをすることもある。

V オーガナイザーにとって大事なこと

オーガナイザーは、3つの場面（ワークショップ前・期間中・後）で多様な役割をとるのであるが、それらの役割の根底にある大事なことは何であろうか。筆者は一口で言えば、「ワークショップに来ている人が安心・安定してその場におれるように下支えすること」であると考えている。具体的には次のようなことである。

(1) ファシリテーターに対して

エンカウンター・グループではファシリテーターが安定してグループにコミットすることが必要であるが、ファシリテーターは時には不安になったり不安定になったりすることがある。そのような時に、オーガナイザーはファシリテーターの話にしっかり耳を傾け、メンバーとグループについての理解と関わり方について、サポートティブにコメントすることが大事である。

(2) メンバーに対して

エンカウンター・グループ体験はかなりインパクトがあるので、メンバーも時に不安になったり不安定になることがある。そのような時にオーガナイザーはそのメンバーに寄り添い、しっかり話を聞いてサポートすることが大事である。そして安心して自分のグループに入ることができるようにする。

(3) 事務局に対して

事務局は緑の下でワークショップ全体に気配り・目配りをし、主に生活上の快適さの確保をするとともにメンバーの心理的快適

さの確保にも注力する。その事務局が気持ちよく動けるようにするためには、オーガナイザーは折にふれて労いと感謝の表現をすることが大事である。

文献

- 安部恒久 1984 青年期仲間集団のファシリテーションに関する一考察 心理臨床学研究, 1(2), 63-72.
- 林もも子 1995 エンカウンター・グループの発展段階尺度の特徴 心理臨床学研究, 12(4), 378-383.
- 岩村 聡 1999 安全なエンカウンター・グループへのオーガナイゼーション—宮浜の会と私達の歩み 広島大学総合科学部学生相談室「学生相談室活動報告書」, 23, 42-58.
- 鎌田道彦 2001 入学初期に必修授業として実施したエンカウンター・グループの効果の検討—自己像の肯定的変化・対人不安の軽減・共感の増大— 人間性心理学研究, 19(2), 82-92.
- 村山正治 1979 私のオーガナイザーとしての経験 九州大学教育学部心理教育相談室紀要, 5, 109-114.
- 中田行重 1993 エンカウンター・グループのファシリテーションについての一考察 心理臨床学研究, 10(3), 53-64.
- 野島一彦 1982a エンカウンター・グループ・プロセス論 福岡大学人文論叢, 13(4), 891-928.
- 野島一彦 1982b エンカウンター・グループ構成論 福岡大学人文論叢, 14(1), 1-32.
- 野島一彦 2000 エンカウンター・グルー

- プのファシリテーション ナカニシヤ
出版
- 野島一彦 2013 大学院におけるエンカウ
ンター・グループ・ファシリテーター
養成プログラム 跡見学園女子大学文
学部臨床心理学科紀要, 1, 43-51.
- 野島一彦・村山正治 1975 エンカウン
ター・グループにおけるSelf Esteem
の変化と関係認知 九州大学教育学部
紀要 (教育心理学部門), 19(2), 41-
48,
- 坂中正義・田中巳貴 2001 小学生におけ
る構成型エンカウンター・グループの
効果に関する再検討—心理的成長の視
点から— 福岡教育大学紀要 (教職科
編), 50, 191-198.
- 申 栄治 1986 エンカウンター・グルー
プにおけるメンバーの成長度とファシ
リテーター関係認知プロセス 心理臨
床学研究, 3(2), 38-47.

2010年度 インターカレッジ・エンカウンター・グループ

インターカレッジ・エンカウンター・グループとは、複数の大学からの参加者が集うエンカウンター・グループです。

エンカウンター・グループは、10人前後の人々とファシリテーター（世話人）と呼ばれる人で構成されます。期間中は、おおむね、ゆったりとした時間の流れの中で、あらかじめ話題を決めない自由な話し合いを中心に過ごします。年齢や性別等にとらわれない対話の中で、自分や人の声に耳を傾けることができるでしょう。自分の心の中に思いつけない発見をしたり、誠実に探求する人の姿から、新しい生き方のヒントが得られるかもしれません。

「聞いたことはあるけど、体験したことがない」「興味はあるけど、これまで二の足を踏んでいた」「グループ臨床をやってみたい」「たまたま時間が空いている」どんな方でも大歓迎。ふるってご参加下さい！

■日時：2010年10月9日（土）～11日（月、祭日）

■場所：九州大学総合臨床心理センター（福岡市東区箱崎6-19-1）

<http://nojima2.hes.kyushu-u.ac.jp/>

*オリエンテーションは初日9時30分からセンター3階和室にて行います。

■参加費：700円（お菓子・お茶代として）

■タイムスケジュール：

日付	9:30～		10:30～12:30		13:45～15:45		16:30～18:30
9日 (土)	オリエンテーション	移動	セッション①	昼休み	セッション②	休憩	セッション③
日付		10:00～12:00		13:15～15:15		16:00～18:00	
10日 (日)		セッション④	昼休み	セッション⑤	休憩	セッション⑥	
日付		10:00～12:00		13:15～15:15		15:30～	
11日 (月)		セッション⑦	昼休み	セッション⑧	移動	全体会	

■スタッフ：

- ・オーガナイザー：野島 一彦（九州大学大学院人間環境学研究院・教育学部教授） 092-642-3154
- ・ファシリテーター：大庭美奈（M2）、橋詰郁恵（M2）、山口雄介（M2）、平田陽子（M2）、
〔九州大学院生等〕 高田加奈子（M1）、陳 香蓮（M1）、土田裕貴（M1）、中野 愛（M1）、
野口恵美（M1）、桂木 彩（福岡市精神保健福祉センター）
- ・マネージャー（申込み・問合せ先）：山口祐子（D1）(kyudaieg@yahoo.co.jp)

■その他：

- ・グループ分けは当日発表します。（5グループ編成予定です）
- ・当日はリラックスできる服装でいらして下さい。
- ・昼食は休憩時間に各自で自由にとって下さい。

現在、募集中です。
ぜひ、ご参加ください♪



■参加申込締切=10月4日（月曜）（但し、先着順30名で締切ります）

申込はメール（kyudaieg@yahoo.co.jp）または以下の申込書をマネージャーまでお願いいたします。

参加申込書

お名前			所属			性別	男・女
連絡先	E-Mail：			グループ経験		有・無	
	電話：						